

*イエスは、これらのことを話されたとき、心が騒いだ。そして証しされた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。あなたがたのうちの一人が、わたしを裏切ります。」（ヨハネ13：21）ペテロがヨハネにだれのことかとイエスに尋ねさせた。イエスは答えられた。「わたしがパン切れを浸して与える者が、その人です。」それからイエスはパン切れを浸して取り、イスカリオテのシモンの子ユダに与えられた。（ヨハネ13：26）「カリオテ出身の人」イスカリオテのユダは、イエスが選ばれた12弟子のひとりであった。

*どうしてユダはイエスを裏切ったのか。いくつかの理由が考えられる。金銭欲が強く、現実の生活の方ばかりに関心が向いていたことをイエスに指摘されたので「切れた」。また、イエスが説く「神の国」に、他のユダヤ人たちと同じように失望していた。また、異端的な考えであるが、本当は裏切ったのではなく、イエスの命令を守っただけなど。しかし、イエスご自身が語られたその原因は「サタンが入った」からである。ユダがパン切れを受け取ると、そのとき、サタンが彼に入った。すると、イエスは彼に言われた。「あなたがしようとしていることを、すぐしなさい。」（ヨハネ13：27）サタンとは、神に反対するもの、神に近づかせまいとする力、イエスを救い主と信じさせなくするもの、悪を行わせるものことである。すなわち人に罪を犯させる勢力のことである。ユダは罪人であった。救い主を裏切って殺すという大きな罪の一端を担った。だから、イエスが「人の子を裏切るその人はわざわいです。そういう人は生まれてこなければよかったです。」（マルコ14：21）と言われたのである。

*13:30 ユダはパン切れを受けると、すぐに出て行った。時は夜であった。「夜」はユダの人生を象徴している。救い主イエス・キリストに出会い、選ばれて12弟子のひとりになり、光の中を歩み続けるはずだったのに、サタンの誘惑に負けて真っ暗闇の中に放り出されてしまった。「そのころ、イエスを売ったユダはイエスが死刑に定められたのを知って後悔し、銀貨三十枚を祭司長たちと長老たちに返して、言った。「私は無実の人の血を売って罪を犯しました。」しかし、彼らは言った。「われわれの知ったことか。自分で始末することだ。」そこで、彼は銀貨を神殿に投げ込んで立ち去った。そして出て行って首をつた。（マタイ27：3～5）ユダは自分が犯した罪の大きさに気づき後悔するが、遅すぎた。

*ユダだけではなく、他の11人の弟子たちはユダの手引きでイエスが捕らえられた時、「そのとき、弟子たちは皆イエスを見捨てて、逃げてしまった。」（マタイ26：56）イエスを守ろうとしたペテロでさえ、いざというときに3回もイエスなど知らないと言った。弟子たちもみなイエスを裏切ったのである。私

たちもイエスを裏切ることにならないとも限らない。あるいはすでに裏切っているのかもしれない。「私たちに試みにあわせなくて、悪からお救いください」と聖霊の助けを求めながら祈り続けなければならない。